

令和8年度 第1号 ～ 大社幼稚園だより ～

心のふるさと 大社幼稚園

令和8年(2026)6月3日



「うさぎうさぎ なに見てはねる ふるさと見てはねる！」

園長 大瀧 正紀



令和8年度がスタートし2か月が過ぎ、大社幼稚園勤務も早いもので3年目となりました。大社での勤務は、以前の勤務も含めると長い年月となり私的なつながりも含め、私にとって“大社”は、大げさかもしれませんが、第2・第3の“ふるさと”のように感じられてきます。

さて、このふるさとという言葉を開くと何故か、♪ 兎追いしかの山～♪ の歌詞が浮かんできます。そして、大社では“うさぎ”をよく目にします。(ちなみに私の妻も孫も兎年です。そんなことはどうでもよいですね。失礼しました。) そんなうさぎですが、知っているような、知らないような。みなさんは、モノクロで描かれたうさぎの眼に色を塗るとしたら何色で塗りますか？赤く塗られる方も多いのでは。果たして本当にうさぎの眼は赤いのでしょうか？実はうさぎの眼は、ほとんどの品種は黒・茶色であり、鳥獣戯画に描かれているうさぎも黒い眼をしています。赤い眼をしたうさぎの印象は、明治以来輸入された品種の一部が、ペットとして多く飼育されていた影響であり、やがてピーターラビットのようなかわいらしいうさぎのイメージができあがったのです。(ちなみに、前節の朝ドラ「ばけばけ」では、主人公の女性の父親は、そのうさぎの飼育ブームにのり儲けようとしたが…) また、ラビットアイランドの名称で知られる観光地「大久野島」も、もともと島にはうさぎは存在せず、対岸の小学校で飼っていた8羽の外来種のうさぎを島に放したものが、大量に繁殖し今に至っています。ことわざでは、うさぎは「二兎を追う者は一兎をも得ず」、「脱兎のごとく」など、あまり良い意味で使われていないものも多く、物語でも「うさぎとかめ」、「因幡の白兎」は、ダーティな。では、うさぎは私たち人間にとって、どんな存在なのでしょう。それは、きっとここにいるうさぎに象徴されていると思います。そうです。月の中で燦然と輝いているうさぎです。月の中のうさぎは慈悲深さの、餅をつく姿は食の豊かさの象徴とされました。さらにうさぎは、不老不死のご利益、子孫繁栄・安産のご利益があるなどといわれ、古より様々な信仰の対象であり、人々にとっては欠かすことのできない、心のふるさと・よりどころだったのです。そういえば、その月に突然帰ってしまったかぐや姫、ウルトラマンAの南隊員は今頃どうしているのでしょうか。ふるさとで、うさぎと楽しく暮らしているのでしょうか。まさか、月に代わってお仕置きをしているとか…。

そんな“うさぎ”と縁のある“大社”ですが、今の子どもたちにとって、“ふるさと大社”はどんな存在なのでしょう。どのような未来を描いているのでしょうか。答えは、神様の使いうさぎのシロなら知っているのかも。

【今年度の学級編成】

学年	さくら組 (年少)	すみれ組 (年中)	ばら組 (年長)	合計
男子	1	2	5	8
女子	2	3	5	10
合計	3	5	10	18

昨年度より園児数が8名減りました。市の規定により2学級となり、さくら組とすみれ組は混合学級となっています。

随時園児を募集しています。
よろしくお祈りします。

普段の幼稚園の様子は、HPで随時掲載しています。ご覧ください。



1学期前半の主な活動



朝の活動では、まずは学年別にランランタイムをがんばって行います。その後は、みんなで楽しくダンスを行います。



朝の活動



田植え



サツマイモ苗植え

お米やサツマイモ、野菜などいろいろな作物を植え、育て、収穫する活動をしています。

出雲大社に出かけ、桜の花を見たり、春みつけをしたりして、楽しみました。



親子ふれあい遠足

昨年度に引き続き、三瓶にバスで出かけました。前半はサヒメルを見学。後半はレクをしたり、親子で触れ合ったりして、とても楽しい時間を過ごしました。



出雲大社



大祭礼に出かけ、神楽を見学したり、大文字を見たりしました。その後、遙堪幼稚園と一緒に弁当をいただきました。



大祭礼見学



未就園児教室開催中

未就園児（3歳未満）の体験保育（ひよこランド）を毎月1回開催しています。幼稚園児と交流しながら、楽しい時間を過ごします。申込やお問い合わせは大社幼稚園（53-2225）まで。HPにも掲載しています。



「大社幼稚園だより」は、教育後援会費により作成させていただいています。